

オトコエシとチョウ

9月下旬ともなると背丈2mほどのオトコエシに花が咲き、居たままで虫を観察し写真を撮ることができるのでありがたい。黄色い花をつけるオミナエシ(女郎花)に対して白い花をつけるオトコエシ(男朗花)であるが、女飯と男飯から訛ったともいわれる。どちらもオミナエシ科である。

この時期に飛来するチョウは翅がだいぶ痛んでいることが多いので端からシャッターを押すわけにはいかないのが残念だ。特にメスグロヒョウモンは必ずと言っていいほど翅がボロボロである。今年はツマグロヒョウモンの生まれたてのような羽化したばかりのきれいなのが2日に亘って来てくれた。時おり翅がボロボロになったツマグロヒョウモンも来るのだが・・・

その他にもチョウの仲間ではベニシジミ、イチモンジセセリ、キマダラセセリ、アオスジアゲハと盛りだくさんだ。相変わらず(1年中だろう)アオスジアゲハは翅を細かく震わせて急がしそうである。

チョウ以外にもハエやアブの種類が多くやってくる。中で面白いのが狩獵バチの襲来である。1匹でやってくるのだが上から威嚇して体当たりをしているようでいかにも獲物を捜しているのは見ていると分かる。たぶんアオムシのような幼虫を探しているのであろうが、獲物をしとめたところは見えない。



花の背丈が高いので軽トラックを横付けにして荷台から撮影した。最近の撮影は殆どが手持ちでシャッターを切っているので手振れ対策でどうしても枚数を撮るのだが、わりとピントがシャープでどれを削除するか悩みである。デジタルは安上がりでありがたいいつも感じている。



キマダラセセリ



アオスジアゲハ

毎朝の気温がいつしか20°Cを切り16度前後
となって、いよいよ秋の真っ只中に入っていく。
我が家の稲刈りは9月10日に終了したが、その
時に稲の間からツマグロヒヨウモンが数頭舞
い上がった。普段はそんなに見かけないのにと
少し不思議に思ったが、その後も隣の家のイネ
に止まっているのを見かけた。イネとツマグロヒ
ヨウモンの中に何か関係があるのだろうか？



イネの中のツマグロヒヨウモン